

九州大学グローバルイノベーション人材育成エコシステム形成事業

(実施期間：平成 26～28 年度)

実施機関：九州大学（総括責任者：谷川 徹）

採択プログラムの概要

九州大学が過去、ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター（QREC）を中心に先行的に実施してきたグローバルアントレプレナー（イノベーション人材）育成の試みを、本事業により全学に拡大する。かつ関係の深い地域（福岡市）や、従来からの広範な海外とのネットワークを活用・強化して、地域ワイド、グローバルワイドのイノベーション人材育成エコシステムを形成、より多様かつグローバルな能力を持つ、アントレプレナー育成システムを確立する。特にビジネス化ステージの教育を強化・新設し、真にイノベーションを起こす人材輩出を目指す。運営に当たり、多くの優れた海外イノベーション教育機関等の支援を受けるが、事業終了後、本教育を自立的に継続するために、各部局教員の事業参加を促して研修の機会とし、本教育担当可能な教員数を拡大する。更に、シーズ起点の Project Based Learning（PBL）にデザイン思考を活用する新たな試行的取組を実施、デザインのリソースを有する九州大学の優位性・特色を活かす事業とする。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	成果	計画・手法の 妥当性	補助事業期間 終了後における 取組の継続性 ・発展性
A	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

既存の QREC の取組を全学に拡大し、平成 30 年度から始まる共創学部の本事業のカリキュラムのエッセンスを盛り込むなど、大学執行部に本事業の価値を大いに認識させており、大学全体を巻き込んだ「学内エコシステム」を構築したことは特筆に値する。福岡市や地域の民間企業との連携による「地域内エコシステム」の構築についても着実に取組が行われている。一方で、既存の QREC プログラムの延長の域を出ていない印象もあり、教育事業や受講者の評価の仕組みや、各教育事業の共通の出口として位置づけた「海外ビジネスプランコンペ参加支援」の強化が望まれる。

・**目標達成度**：既存の QREC の取組で培ったノウハウを活かして着実な取組が行われており、受講者数は自らの高い目標値には達していないものの、要件を大きく上回る 400 名で、所期の目標

を達成している。採択時の留意事項については、補助金額の変更には対応しているものの、第三者視点での評価については報告から確認できなかった。

・**成果**：学内8部局の協力の下、9つの教育事業が行われており、全てPBLを採用した実践的取組である。デザイン思考も多くの教育事業で活用されており、多様な受講者を集めたアクティブラーニングを実施している。その多くは、最終段階で課題解決のビジネスプランや具体的な成果物を提案させ、実務家や投資家の評価を得るステージを設けており、社会実装、事業化を意識したプログラム設計となっている。また、福岡市や地域の民間企業との連携が適切に行われていることも評価できる。

・**計画・手法の妥当性**：QRECを統括部署として、9つの個別事業に分散した体制で進められた。統括責任者の下、ピラミッド型体制によるマネジメントが行われ、連絡会議が実施されるなど円滑な遂行であり、妥当なものであった。今後は評価体制を充実させてカリキュラムの改善などの取組の強化を期待する。また、地域を代表する国立大学としてのリーダーシップを発揮し、本事業に選定されていない大学への普及やノウハウの共有への取組を期待する。

・**補助事業期間終了後における取組の継続性・発展性**：大学全体として本プログラムへの理解が進んでおり、複数部局での正規科目としての定着が進み、QRECだけでなくビジネススクールや芸術工学研究院などが協力体制をとっていることは評価できる。さらに、平成30年度に新設される共創学部ではデザイン思考なども教育の柱として位置づけられていることは評価できる。また、地域の企業との継続的な人材教育プログラムの実施について検討を進めていることから、継続性・発展性の確保が期待できる。QRECの資産を再構築すると共に、自立的な収入を得る方策についての検討が求められる。